

# 日中韓3大学が協力体制

## 環境・高齡化・共通課題に解決策

東京大学や中国・清華大学など日中韓3カ国の主要大学は、学術分野で安定・互恵的な協力関係を構築する。地球環境問題や社会の高齡化など日中韓で共通する課題に対し、イノベーションをてこにした課題解決策を共同で見いだす。鳩山政権が掲げる「東アジア共同体構想」実現には、政治や経済分野だけでなく学術分野での協力も不可欠。アジアの中核である日中韓の大学が協調し、相互依存関係を深めることで、学術面から東アジア共同体構想を推進する意向も込められている。(2面に解説)

### 東アジア 共同体構想 学術面から推進

11月5-6日に韓国科学技術院(KAIST)で開かれる「アジア・イノベーション・カンファレンス(AIC2009)」において、イノベーションによる解決策を共同で見いだす枠組み

「アジア・イノベーション・ソサエティ」の創設が宣言される見通し。日本からは前東大総長の小宮山宏氏(三菱総合研究所理事長)や「イノベーション政策研究センター」教授陣らが参加。

日中韓が直面する共通課題に対し、「横の関係」構築の重要性を認識し、3カ国間で協力体制を構築していくことが確認される。

アジアの中心である日中韓の関係発展には、

「バイ(2国間)の関係だけでなく、3者での関係が戦略的に重要」(関係者)といわれており、今回の協力体制構築につながった。日中韓で共通する課題に対し、学術的アプローチを開始する。東大、清華大、KAISTが取り組む当面の課題は、「地球環境問題」

と「社会の高齡化」。いずれも3カ国が直面する課題であり、学術という非競争領域で協調。イノベーションをてこにした課題解決策を模索していく。とくに「グリーンテクノロジー」など科学技術分野においては、中国や韓国の実力が向上しており、先行するわが国を含め、よりフラットな関係づくりを模索していく方針だ。

### 日中韓、学術分野で連携

### 「横の関係」構築へ

#### 解説

これまでわが国のアジア諸国に対する

と。 (1面参照)

スタンスは、縦の関係構築が中心。とくに経済分野ではその傾向が如実に現れており、政府開発援助(ODA)を中心に「支援」という色合いが強かった。しかし中国や韓国の急成長で実力差は年々縮小。今後、横の関係構築がさまざまな分野で問われることになる。鳩山政権が唱える「東アジア共同体構想」の実現には、制度調和などフラットな関係づくりが急務

日中韓3カ国の主要大学の連携するの。その一環。ともに直面する課題に対しそれぞれが蓄積する「知」を共有化。イノベーションによる課題解決に乗り出す。地球環境問題は、政治や経済的な駆け引きが繰り広げられるが、学術面という非競争領域からのアプローチならば3カ国で安定的に深化させることも可能だ。東アジア共同体という巨大な目標に向けて、まずは学術分野での連携が始まる。

(編集委員・井上渉)